

## II. アントレプレナーシップ教育プログラムの「東北モデル」の実践事例

本調査では、昨年度の「アントレプレナーシップ教育プログラムの普及に関する東北的モデル検討調査」で構築したアントレプレナーシップ教育プログラムの「東北モデル」について、(1)学校教育の正課への導入・実践と、(2)学校教育以外の活動への導入・実践のモニタリングをおこなった。

以下では、各実践事例の概要を整理する。

### 1. 学校教育の正課におけるアントレプレナーシップ教育プログラムの「東北モデル」の実践事例

#### (1) 仙台市立柳生小学校「みんなで創ろう！柳生キッズファーム」

##### 取組の概要

教育の対象者 小学5年生全員
教育の実施者 仙台市立柳生小学校
教育プログラムの企画者 小学5年生担任
教育プログラム企画の背景・経緯 当校は、渡邊校長の方針に立ち、「未来を拓く生きる力のある子ども」「地域とともに成長する学校」を目標としてきた。そこで、正課の時間だけでなく、生涯学習として余暇の時間に子どもを育てすためのシステムが検討されていた。 2000年度2学期に「総合的な学習の時間」の導入に対応して学校に協力することになっていたボランティアから、授業以外の時間でも指導可能との申し出を受け、教員を含むボランティア講師の活用による子ども向け生涯学習講座として、「柳生子ども塾」が開設された。 2001年度から「柳生子ども塾」のカリキュラムの1つ、“子どもの力を育てる学習”領域の新規講座として、起業教育「柳生小バーチャルカンパニー」が実施された。 本年度はその経験を生かして、正課で取り組むこととした。
教育プログラムの目標 本取組を通じて育てたい4つの力として、以下の4つがあげられている。 意欲関心を持って課題に取り組もうとする力 課題をさまざまな角度から追求し解決する力 調べたことを自分なりに工夫して表現する力 学習したことを実践する力
教育プログラムの目的 原材料の生産、商品開発、販売体験などを通じて、創造性、チャレンジ精神、問題解決力などのある児童の育成 IT活用能力の向上 日常の教科学習の活用 収益で社会貢献を学ぶ。
教育プログラムの内容

<p>実施期間・回数・頻度・延べ時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年4月から「総合的な学習の時間」の中で全90時間実施</li> </ul> <p>実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内、体育館、農園、販売場所（太白区役所前広場、一番町三丁目商店街）</li> </ul> <p>対象者の人数規模</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学5年生4クラス125名（男女はほぼ同数）</li> </ul> <p>プログラムの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柳生和紙の原料、ハーブ、稲などを育て、農業体験を行うとともに、数名ずつに分かれて、会社を設立し、商品を開発し販売した。また、キッズファームのマークを作成したり、会社ごとにホームページを作成した。</li> <li>・販売する商品の選定に際しては、商品審査会を2回開催し、コストパフォーマンスと魅力度について、互いに評価しあい、商品の絞り込みを行った。特に、2回目は子ども達の親や仙台市教育委員会などの外部関係者も交えて実施した。</li> <li>・販売体験は2回実践した。10月20日の「太白区民まつり」は課外活動として、希望者のみ参加した。この経験を踏まえて、11月23日の「一番町三丁目まちづくり実験事業」での販売実践は、授業時間内の活動（校外活動）として、全員が参加した。</li> <li>・一番町での販売実践における利益は、半分を資金難に悩む地域のイベント「光のページェント」に寄付し、残りの半分は、クラスごとに話し合っ社会貢献の目的に使用することとした。</li> <li>・課外活動は、放課後、希望者のみが参加して実施した。</li> </ul> <p>講師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学5年生担任 小熊 信治 氏 高久 由佳 氏 朝倉 浩一 氏 佐藤 哲也 氏</li> </ul> <p>使用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
<p>教育プログラム実施にかかった事業費</p> <p>事業費 95,235 円（消費税抜き）（東北経済産業局「地域におけるアントレプレナーシップ教育の自立的普及及び起業化人材発掘支援調査」事業費）</p>
<p>教育プログラムの効果</p> <p>子ども達に、以下のような変化がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* こういう勉強がしたいという主体的な勉強意識が表れた。</li> <li>* 新聞を読んだり、ニュースを見るようになり、社会への関心を持つようになった。親と会話ができるようになった。また、親の仕事を理解するようになった。</li> <li>* 町に対する理解が深まり、観察力が高くなった。</li> <li>* PCの活用能力が飛躍的に向上した。</li> </ul> <p>参加意欲の高い子どもだけが参加していた昨年度に比べ、正課の授業になったことで、子ども達の意欲にもむらが生じやすい。これに対して、やる気のある子ども達には正課に加えて課外活動に参加させることで、彼らの意欲を生かして、ハーブの収穫やポプリ袋のデザイン考案などに取り組みさせている。また、学校側の状況としても子ども達全員に機会提供が難しい取組や、休日登校となると代休手配や移動手段（引率）の確保などを検討しなければならず、負荷が大きいという問題があるため、課外活動としての実施と併用することで効率的に取組を進めている。</p> <p>これまで子ども達の成果の評価者は教員だけだったが、親や地域の人も様々な評価を行うようになった。また、ホームページ上での公開により評価者が飛躍的に拡大した。そして、子ども達は失敗してもへこたれずに次へチャレンジするようになった。</p> <p>2001年度から実施した「柳生小バーチャルカンパニー」で柳生和紙を取り上げてきた</p>

<p>ことから、地域での柳生和紙への理解が深まり、改めて見直されつつある。毎年旅行を行っていた敬老会では、2002年度は旅行の代わりに和紙づくりに参加した。今では、高齢者の生き甲斐となっている。</p> <p>起業教育への関心は高く、子どもに体験させたいという親や、授業を見学したいという小学校など、全国各地から問い合わせを受けている。</p> <p>柳生小学校では、「学校を中心とした地域づくり」を目指しており、起業教育は地域づくりのための有効なツールと考えられている。そのため、教員は積極的に取り組み内容を地域へ説明することが責任として求められている。それによって教員は地域に評価される立場となり、あらゆる意見が学校に寄せられるきっかけとなっている。</p> <p>地域への情報発信のツールは多様である。基本は、地域全体に配布する学校便り、教員自身のPTAなどでの報告の他に、「柳生子ども塾」のような地域の人に参加できる活動、マスコミ、そして柳生ネットなど多彩なツールを活用して、地域社会の評価を聞くために惜しみなく情報を発信している。その結果、教員、家庭、地域住民間の交流の垣根を低くしている。</p>
<p>教育プログラム実施にあたっての課題</p> <p>商品としてハープ入り石けんを当初検討したが、調べてみると石けんは医薬部外品に該当し、製造販売に際しては厚生労働省の認可が必要なが分かり、商品とすることができなかった。(ただし、このような問題に対する対応を子ども達に試行錯誤させることも起業教育の方針と位置づけられている。)</p> <p>起業教育の認知度が高まり、先進的な事例として紹介されるほど、マスコミをはじめとした取材が増え、特に販売実践の際には、販売に影響を与えかねない。一方、子ども達にとって、マスコミの取材を受けることが動機付けとなっている部分もあり、情報公開の方針からも地域や社会に対する広報活動と捉え、マスコミへの露出は重要との認識が関係者間に共有されている。教育現場と取材者側が連携を取り有効な関係を維持することが求められる。</p>
<p>照会先</p> <p>仙台市立柳生小学校 教諭 小熊 信治 氏</p> <ul style="list-style-type: none"><li>〒981-1106 仙台市太白区柳生字台畑 100 番地</li><li>TEL:022-741-6470 Fax:022-741-6471</li></ul>

(資料)モニタリング結果

柳生小学校資料

東北経済産業局

「アントレプレナーシップ教育の普及促進による未来の東北リーダー育成実践調査報告書」  
(H14年度)

### プログラム内容

プログラムの主な内容と実施状況は以下のとおりである。

1) 田植え ( 2 時間 )

2) 柳生和紙についての学習 ( 2 時間 )

3) 種まき苗植え ( 2 時間 )

\* 和紙の原料となる「とろろあおい」、ハーブ苗、枝豆 ( 4 年生時に栽培 ) を植える

4) 柳生和紙紙すき体験 ( 2 時間 )

5) デジタルカメラ・ホームページ作成ソフトの学習 ( 6 時間 )

\* 学級の係のホームページを作成

6) 作物の観察と雑草取り ( 2 時間 )

a) 柳生キッズファームのホームページ立ち上げ ( 課外活動・ホームページプロジェクト )

7月19日(金) 14:00~15:30

- ・各担当ページを発表し、現時点での作成状況を確認し合った。
- ・前回までの作業工程は、ページの題名をつける ( ロゴ作成 ) テキストで文字を入れる デジタルカメラでとった画像を入れる イラスト・アニメーションを入れる 背景をつける リンクボタンをつける、である。
- ・1人で作業する子どもや数人のグループで1つのページを作成する子どももあり、ホームページビルダーでは飽きたらずに自らプログラムを作成する子どももいるなど、進捗は様々である。

b) ハーブつみ・乾燥作業 ( 課外活動・ハーブプロジェクト )

7) キッズファームの門のデザイン ( 3 時間 )

8) 作物の観察と雑草取り ( 夏休み後 ) ( 2 時間 )

\* ハーブつみ

9) 枝豆の収穫 ( 2 時間 )

\* 収穫後は塩ゆでして食べる

c) ポプリ袋のデザインの考案 ( 課外活動・ポプリプロジェクト )

10) キッズファームのマークの作成 ( 6 時間 )

9月18日(木/11:00~12:30)

- ・クラスごとに異なる課題に取り組み、1組、3組、4組が会社のマークに関する授業を行った。テーマは大きく「会社のマークの研究」、「キッズファームのマークのデザイン」、「キッズファームのマークの決定」から構成されている。
- ・「会社のマークの研究」では、子ども達は、あらかじめ身の回りの会社のマークを観察し、気に入ったマークを模写して持ち寄り、どこが気に入ったかを含めて、黒板の前で全員発表した。また、会社のマークの成り立ちを事前に各企業にメールで問い合わせ、企業からの回答結果も報告した。
- ・「キッズファームのマークのデザイン」では、子ども達に画用紙が配布され、各自が思い思いのマークを描き、絵の横には解説を添えた。
- ・「キッズファームのマークの決定」では、自分たちで描いたマークをプレゼンテーションし、互いに評価した。クラス全員のマークが黒板に張り出され、挙手により20ポイント以上のものがクラスの候補作品となった。最終的に3点を選出した。

11) 商品づくり ( 5 時間 )

9月18日(木/11:00~12:30)

- ・2組のみがポプリづくりの授業を行った。4班に分かれて各自が1個ずつの布袋を縫い、キッズファームで収穫したハーブ(4種類)と綿をつめて完成とする。

10月18日(金/13:30~15:00)

- ・「太白区民まつり」での販売実践(希望者のみ参加)に向け、商品となるハーブポプリと小物入れ(牛乳パックの下半分を切り取り和紙を貼ったもの)を製作し、パッケージに入れて、キッズファームのマークをシールにして貼り付けた。
- ・販売実践に参加する子どもは、製作班とは別教室で商品についての知識と商品の値段・おつりの確認、店舗に貼るポスターデザインを検討した。

d) キッズファームのマークシール作成 ( 課外活動・ホームページプロジェクト )

e) ホームページの更新 ( 課外活動・ホームページプロジェクト )

f) 太白区民まつりでの販売活動 ( 課外活動 )

10月20日(日/10:00~15:00)

- ・48人が参加し、3交代制で会計・販売・宣伝を行った。商品の価格は、¥85、¥195など、おつりが出るように5円単位で教員が設定した。

12) 稲刈り ( 2 時間 )

13) 商品開発 ( 6 時間 )

\* 会社を設立(会社名、方針、役割を決定)、会社ごとにマークを考える、商品開発(素

材は和紙やハープなどを使うこととする)

10月7日(月/10:45~12:30)

- ・授業の最初に、教員が、2001年度に実施した「柳生小バーチャルカンパニー」の活動を紹介し、「会社をつくる」ために必要なこと(会社の名前には願いをこめること、個人の得意な能力を組み合わせるグループをつくること、どんな会社にしたいという方針を決めること、役職と責任について等)について説明した。事前に、希望の社名、方針、役割、扱いたい商品などの項目を検討しておく宿題が出されており、グループが決まったところから、それぞれが考えてきたことを発表して議論し、多数決によって会社の決定事項を決済していった。

10月25日(金/11:40~12:30)

- ・11月23日の出店に向け、商品を製作し会社のマークを検討した。授業中に商品の材料となる和紙は無料ではないことを子ども達は知り、無駄なく利用することで利益が上がることを学んだ。

#### 14)第1回商品審査会(3時間)

11月1日(金/13:30~14:30)

- ・各社8分で社名、役職紹介、会社方針の説明、商品の紹介を行い、商品に関する質疑応答を行った。
- ・発表者以外は、それぞれの商品について、買いたい度やコストパフォーマンスを5段階で評価する審査用紙を記入し、提出した。発表場所はそれぞれの教室だが、審査する子ども達はクラス間を自由に行き来した。

#### 15)商品の改良(4時間)

#### 16)会社ごとのホームページづくり(5時間)

#### 17)第2回商品審査会(3時間)

11月18日(月/10:45~12:25)

- ・他学年の教員や、親などの外部関係者が参加し、大人の視点からも商品の評価を行った。審査項目には、商品の評価だけでなく、プレゼンテーションの評価も加えられた。
- ・商品は第1回商品審査会の結果を受けて、商品を絞り改良を加えている。
- ・体育館内に4カ所のブースを設けてモニターを設置し、各社ホームページと実際の商品を題材として紹介を行った。

#### 18)商品づくり(4時間)

#### 19)販売体験(2時間)

11月23日(土/10:30~14:00)

- ・「一番町三丁目まちづくり実験事業」に参加し、商品を販売した。校外学習として、5年生全員が参加した。
- ・柳生和紙を伝えること、利益の半分は「光のページェント」(仙台市の中心ストリートである定禅寺通り、青葉通りで開催されるクリスマスのイルミネーション)に寄付す

東北経済産業局

「アントレプレナーシップ教育の普及促進による未来の東北リーダー育成実践調査報告書」  
(H14年度)

ることを目的として実施した。

- ・ 出店場所は人通りが最も多い場所であり、各社が交代で出店した。販売にあたり、各社売上目標を設定して、当日売上との比較を後日行った。

g) ホームページの再更新 (課外活動・ホームページプロジェクト)

h) 収益を「光のページェント」に寄付

20) ハーブ石けんづくり (1時間)

- ・ 石けんキットを活用

21) おにぎりづくり (3時間)

- ・ 収穫した米で調理

i) ホームページの再更新 (課外活動・ホームページプロジェクト)

22) 文集づくり (10時間)

- ・ 1年間の活動をまとめた個人文集を作成

23) 発表会

24) 会社のホームページの更新

- ・ 1年間のまとめを掲載